図書館通信　３月号　宇東図書委員会

今年度も終わりに近づいてきました。まだまだ新型コロナウイルスが収まっていません。体調に気を付けて過ごしましょう。3学期や春休みはじっくりと読書に取り組むことができる機会です。新しい本を読んでみませんか？　先日「2021年度本屋大賞ノミネート10作品」が発表されました。そこで、今回は本屋大賞についての説明と、私たち1年1組・2組一押しの一冊を紹介します。

【本屋大賞とは】

「本屋大賞」とは、書店員有志で組織する本屋大賞実行委員会が運営していて、書店（オンライン書店も含む）で働く**書店員の投票だけで選ばれる賞です。**過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様に薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。また「本屋大賞」は発掘部門も設けます。この「発掘部門」は既刊本市場の活性化を狙ったもので、過去に出版された本の中で、時代を超えて残る本や、今読み返しても面白いと書店員が思った本を選びます。**商品である本と、顧客である読者を最も知る立場にいる書店員が、売れる本を作っていく、そして、出版業界を現場から盛り上げていくことを目標に発案されました。**

【2021年ノミネート作品】

特設コーナーにすべて展示しています！

・『犬がいた季節』伊吹有喜（著）	・『お探し物は図書室まで』青山美智子（著）
・『推し、燃ゆ』宇佐見りん（著）	・『自転しながら公転する』山本文緒（著）
・『逆ソクラテス』伊坂幸太郎（著）	・『この本を盗むものは』深緑野分（著）
・『52ヘルツのクジラたち』町田そのこ（著）	・『オルタネート』加藤シゲアキ（著）
・『八月の銀の雪』伊与原新（著）	・『滅びの前のシャングリラ』凪良ゆう（著）

祝　吉川英治文学新人賞受賞

１年１組、２組おすすめの一冊

『オルタネート』　加藤シゲアキ　（著）

高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須となった現代。高校を舞台に、若者たちの運命が、鮮やかに加速していく。全国配信の料理コンテストで巻き起こった“悲劇”の後遺症に思い悩む蓉。母との軋轢により、“絶対真実の愛”を求め続ける「オルタネート」信奉者の凪津。高校を中退し、“亡霊の街”から逃れるように、音楽家の集うシェアハウスへと潜り込んだ尚志。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。私たちと同じ高校生に焦点があてられていて、読み進むうち止まらなくなり、あっという間に読んでしまいます。ラストの展開にも目が離せません。

いかがでしたか？　本屋大賞について理解できたでしょうか？　今年度の大賞の発表は４月 14 日です。どの作品が受賞するか楽しみですね。図書館には今年度本屋大賞にノミネートされている全 10 作品や過去の本屋大賞受賞作などをそろえています。ぜひ足を運んでみてください。